



国ごとの多様性を尊重し、
違いに寄り添う外交で、
中南米の専門家をめざす。

坂井達弥 さん(1991年生まれ)
加納高校 出身

出身
大学

南山大学

外国語学部 スペイン・ラテンアメリカ学科
<https://www.nanzan-u.ac.jp>



企業
情報

外務省
外務専門職中南米局南米課

<https://www.mofa.go.jp/mofaj/index.html>

——学生時代

「受験のために通っていた塾での勉強がきっかけで、苦手だった外国語の勉強がおもしろく感じ、思い切って外国語の世界に飛び込んでみたくなりました。地元はペルーやブラジルからの移民が多く、幼少期から中南米出身の友達と遊んでいました。私にとっても身近な地域。その影響もあり、スペイン語を学びたいと思い、スペイン・ラテンアメリカ学科のある南山大学へ進学しました」

大学時代のことを教えてください。

「スペインや中南米出身の先生が多い環境で学べたことが、自身の成長につながっていると思います。特に大学3年のときに経験したスペイン留学は私にとって特別なものです。今の仕事を志望するきっかけでもあります。スペインは日本に対して友好的で、それは私たちの先人が積み重ねてきた結果の表れだと思います。それから『私もその役割を担える仕事に就きたい』という気持ちになり、外交官をめざすようになりました」

——仕事について

「外務省の外務専門職として入省し、中南米局中米カリブ課で1年、スペインで2年の研修を経て、外交官としてホンジュラスに2年、メキシコに3年、現地の大使館に勤務しました。23年に帰国し、現在では中南米局南米課にてアルゼンチンと

パラグアイを主に担当しています」

心がけていることは？

「日本を代表して他国と友好関係を築き、外国との交渉や国際的な問題解決に取り組むことが私たちの仕事です。心がけているのは、各国の国益を尊重しながら妥協点を見つけること。国ごとの違いを理解し歩み寄れるところと、日本のために譲れないところを明確にして外交することを大切にしています」

——やりがい

「仕事の信念であるしっかりと妥協点を見つけることを軸に、お互いの国が満足できる結果を出せたときにやりがいを感じます。首脳会談や外相会談では、日本として何を言うべきかを考えることが私たちの仕事ですが、その際だけでなく相手国の立場を理解できているかによって成果は変わってくると思います。お互いが納得のいくかたちで無事に会談を終えられたときのやりがいはひとしおです。目標は、周りから『中南米のことといったらこいつだ!』と思われる人になることです。中南



米で実際に働いた国はホンジュラスとメキシコの2ヶ国のみ。もっと多くの国を見て専門知識を増やし、日本と中南米の良好な関係構築に貢献していきたいです」

——メッセージ

「いろいろなことに挑戦して視野を広げてほしいです。将来どうなりたいか、よくわからず悩む時期だと思いますが、まずは世界を知ることから始めるといいと思います。何事にも前向きにチャレンジしたことは、必ず将来役に立ちます。分野を絞らずに好奇心をもって多くの経験を積んでください」

ありがとうございました。



自分
の
経
歴

17歳

↓

20歳

↓

現在

受験勉強がきっかけで語学のおもしろさに目覚め、理系から文系への進路転向を決意。

スペインへの留学がきっかけで、外交官をめざす。

外交官としての海外赴任を得て、中南米局南米課にてアルゼンチン・パラグアイを担当。



先輩のインタビューをもっと見た方は、WEBサイトへ!

<http://amb100search.com>

工学と医学の知識をいかして、
医療機器と患者さんをつなぐ
架け橋になる



伊吹悠さん (2001年生まれ)
安城東高校 出身

企業
情報

安城更生病院

安城市安城町東広畔28
<https://anjokosei.jp/>

出身
大学

中部大学

生命健康科学部臨床工学科
<https://www.chubu.ac.jp>



——学生時代

「親が医療系の仕事をしていて、
がこの道に進んだきっかけです。数
ある医療職の中でも、得意だった理
系の知識もいかせる臨床工学技士
の仕事に興味をもちました。A-や
機械が発達していくなかで、今後ま
すす重要になる将来性のある仕
事だと感じました」

大学時代のことを教えてください。

「臨床工学技士の国家資格を取得す
るため、中部大学臨床工学科に進学
しました。ひとりで黙々と勉強でき
る性格ではなかったのですが、同じ目標
をもった仲間と、得意分野を教え合
いながら学べる環境も心強かった
です。まずは電気工学など工学の基
礎を学び、2年次以降は解剖学など
医学的な学びも増えていきます。4
年次は、医療機器の構造など、より
専門的な分野を学びました。印象に
残っている学びは、臨床実習で現場
に出て、患者さんと向き合う臨床工
学技士の姿を見たことです。現場の
リアルな空気を感じることができ
ました。この仕事は、医療機器自体
に目がいきがちですが、その先には
必ず患者さんがいて、患者さんのた
めの機器であるという意識をもつ
ことが大切だと実感しました」

——仕事について

「国家試験に合格し、安城更生病院
に就職しました。臨床工学技士は、
工学と医学の知識をいかして、医療
機器と患者さんをつなぐ架け橋と
なる仕事です。現在私は、手術セン
ターで働いています」

現在の仕事内容を教えてください。

「人工呼吸器、人工心肺装置、心電図
モニターなどの医療機器を保守・
点検し、すぐに使える状態に整える
ことが私たちの役割です。タスク・
ソフト/シェアが進み、業務の幅も
広がってきています。手術では、ひ
とつの手術に看護師、診療放射線技
師、臨床検査技師など、多くの専門
職が関わるため、多職種の方とのコ
ミュニケーションが非常に重要で
す。職種にとらわれず、幅広い知識
をインプットする姿勢が大切だと
実感しました」

——やりがい

「多くの専門職の方たちと協力して
手術を成し遂げたときや、予期せぬ
事態に打開策を考えて乗り越えら
れたときに大きなやりがいを感じ
ます。ただ医療機器と向き合うだけ
では得られない達成感があります。
今後様々な部署で経験を積み、積
極的にコミュニケーションをとっ
ていきたいです」

——メッセージ

「中部大学は総合大学なので、工学
や医学など各分野の専門の先生
から学べるのが進学先を決めた
きっかけです。他学部の学生と関わ
れる点にも視野や価値観を広げら
れる可能性を感じました。学生時代
は、何事も全力で取り組むことが大
切だと思います。何の役に立つんだ
ろうと疑問をもつよりも、目の前の
ことに真剣に取り組む姿勢が大切
です。今は気づかないかもしれませんが、
社会に出たときにきつと役立
つと思いますよ」

ありがとうございました。



18歳

↓

22歳

↓

現在

親が医療職をしていたことがきっかけ
で、臨床工学技士に興味をもつ。

中部大学に進学し、工学と医学の基
礎を学ぶ。国家試験に合格する。

多職種と連携し、チームで日々の仕事
に取り組む。

先輩のインタビューをもっと見た方は、WEBサイトへ！

<http://amb100search.com>





日々の生活を心地よく前向きに
ライフスタイルに寄り添い、

寺町慶祐さん

名古屋国際高校 出身
名古屋外国語大学 世界共生学部卒業

企業
情報

T.F.L / 株式会社ティー・エフ・エル

名古屋市中区栄5-13-17 T.F.Lビル
<https://timeforlivin.com>

——学生時代

「高校3年のときに、現在働いているセレクトショップ『T.F.L』と出会いました。友達に連れて行ってもらったのがきっかけ。働いているスタッフのかつこよさと大人っぽさが印象的でした。高校生相手にもフレンドリーに接してくれたので、それから通うようになりました。高校時代、オーストラリアへ2回、イタリアへ1回留学に行ったことも印象に残っています。広い世界を知ることができ、視野が広がり、メンタルも鍛えられたと思います」

大学時代について教えてください。

「外国人との共生をテーマに、多様な文化や言語をどう日本に落とし込んでいくかを学びました。SNSでは断片的な情報しか得られないからこそ、実際に国内外問わずいろんな場所に行ったりリアルな体験することの大切さも学びました。『共存』ではなく『共生』。それは、多様な価値観をすり合わせながら共に生きていること。その本質を学べたことは今でも大きな財産です」

——仕事について

「大学3年のときに、客として通っていた『T.F.L』でアルバイトを始め、大学卒業後もそのまま就職しました。人への愛情が深いお店だと感じたことが、ここで働きたいと思った一番の理由です。地域に根ざした活動をしていて、名古屋でアパレルを5店舗とカフェを1店舗展開し

ています。働くスタッフも自分のお店だけでなく、名古屋という街自体が盛り上がるような動きをしているのも魅力に感じました」

現在の活動内容を教えてください。

「二人ひとりのライフスタイルに寄り添った提案をすることが仕事です。服を通じて、日々の生活が少しでも心地よく前向きになれるように。その服を着ることで気分が上がるアイテムの提案を心がけています。かつこい商品やただ販売するのではなく、お客様の日常に自然と溶け込むことが大切です。洋服だけでなく化粧品を扱っていたり、ドリンクを楽しめるテラスもあるので、みんなが気軽に立ち寄れる『生活の拠り所』をめざしています」

——やりがい

「この仕事は特に人との出会いが多く、毎日新しい人と出会えるのが魅力です。人それぞれに生活があつて価値観や考え方も違う。そんな人たちと関われることが楽しいです。店内DJのイベントを企画したり、同じ日は1日もなく毎日が新鮮です」



——メッセージ

「この業界は、挑戦を恐れている結果は出ません。みなさんには、挑戦する気持ち、物事を面白おかしく考える発想力を大切にしてほしいです。子どものころは、『こうしたらもっと面白くなるかも!』と思える感性があつたはず。それを、大人の視点で育てていく。ひとつのことを10にも100にも広げていく発想ができるようになると楽しいですよ。僕自身も留学経験で考え方の幅や視野が広がり、それが今の糧になっています」

ありがとうございました。



18歳

↓

22歳

↓

現在

自分
年代

友達に連れて行ってもらったことがきっかけで、T.F.Lと出会う。

大学卒業後、アルバイトをしていたT.F.Lに就職。

お客様の日常に自然と溶け込み、みんなが気軽に立ち寄れる『生活の拠り所』をめざす。

先輩のインタビューをもっと見た方は、WEBサイトへ!

<http://amb100search.com>



今ではそれが自分の強みに

自分も一緒に楽しむ。

昔から人を楽しませることが好きで



武井るみのさん

昭和高校 出身
名古屋女子文化短期大学 卒業

企業
情報

SHEER STUDIO / RU-UM

https://www.instagram.com/sheer_studio_nagoya/
<https://sheer-studio.com>

——学生時代

「友達と過ごす高校生活は本当に楽しくて、毎日のように遊んでいました。駄菓子屋で焼きそばを食べたりした何気ない日々の思い出が宝物です。何も考えず楽しめるのは学生の特権。全力で楽しんだ感覚や経験が仕事にも生きていていると思います」

——仕事について

「短大卒業後、一度は会社員として働きましたが、将来のビジョンが描けずエステ業界に転職しました。高校生のときから楽しい雰囲気でするのが得意だったので、その接客スタイルがエステ業界でもいかせたと思います。その後、結婚して2人の子どもを出産しました。子育ての日々のなかで、子どもを撮りはじめたことが、カメラを始めるきっかけです。自分の子どもを可愛く撮りたい一心で、一眼レフを購入し撮影を始めました。カメラ講座に参加し、30代でカメラの世界に入りました」

「子育てがきっかけなんですね？」
「子どもの写真を撮っているうちに、まわりから『自分の子ども撮ってほしい』と頼まれるようになりまして。最初は趣味として無料で撮影する程度。ブログで写真や日常を発信していると、知らない人からも『撮ってほしい』と声をかけられるようになり、金額を設定して仕事としての一歩を踏み出しました。当時は男性中心の業界だったこともあり、『ママフォトグラファー』として



——やりがい

「撮った写真を見ていただく、お客様によるこんでもらえたことをダイレクトに実感できるので、やりがいを得られます。もちろんプレッシャーもありますし、思うように撮れず悔しい経験をしたこともあります。それも含めてカメラは奥が深く、15年経ってもまだ学びたい、もっと撮りたいと思う仕事です」

——メッセージ

「最初は自分に特別な才能があるとは思っていませんでしたが、必要としてくれる人がいて、撮影を続けているうちに自信がついてきました。求められてそれに応えるうちに、自然と楽しくなったり自分の強みになったりすることがあります。時代が変わっても、人の役に立ち、成功させ、利益をもたらすことが仕事の本質だと私は思います。無駄な経験なんてひとつもないので、みなさんいろいろなことに挑戦してみてください」

ありがとうございました。



18歳

↓

36歳

↓

現在

自分
の
安
心

友達と楽しい青春時代を送る。何気ない日々が宝物に。

自分の子どもを撮りはじめたことがきっかけで、カメラの世界へ。

自然な表情を引き出す関係づくりを大切に、家族写真から企業写真まで幅広く活躍中。

先輩のインタビューをもっと見た方は、WEBサイトへ！

<http://amb100search.com>



みなさんが安心して乗車できる
安全な自動車を作る



林望 さん (1995 年生まれ)
名古屋工学院専門学校高等課程 出身

企業
情報

株式会社サンスタッフ
豊田自動織機エンジニアリング
<https://www.sunstaff.co.jp>

出身
大学

愛知工科大学
電子ロボット工学科
<https://www.aut.ac.jp>



——学生時代

「高校時代は、資格取得に励みました。危険物取扱者乙種・甲種など、学校から提示されていた資格は、ほとんど取得しました。電子機械コースだったこともあり、電子回路を組み立てて鋼材を加工し、昆虫のようなロボットを製作したことが印象に残っています。大学でもモノづくりを深く学びたいと思い、愛知工科大学に進学しました」

大学時代のことを教えてください。

「大きく分けて、電子回路について、プログラミングについて学びました。CADの操作やプログラミングについて学んだことは、今の仕事にもつながっています。将来は自動車関係の設計に携わってみたいという思いがあり、豊田自動織機グループの人材サービスと開発・設計請負を展開するサンスタッフに就職しました」

——仕事について

「現在は、豊田自動織機エンジニアリングでエンジニアとして働いています。最初の3、4年は設計の仕事を担当しました。現在は、CAE（コンピュータを利用した設計支援）を活用した自動車のデータ解析を任されています」

現在の仕事内容を教えてください。

「走行中の自動車が何かに衝突してしまったとき、車内の人が致命傷に至らないよう、衝突実験をしてデー



タ解析をし、安全性能を評価します。試験内容は、ダミーの乗客を乗せた自動車を正面から壁に衝突させたり、側面から自動車を衝突させたりして、エアバッグが機能しているか、衝撃を逃しているかを確認します。販売する国によって安全基準が異なるので、その条件を満たしているか、正しい試験内容になっているかを確認しながら検査をします。みなさんが安心して乗車できる安全な自動車を作ることが私たちの仕事です。自動車にとって、とても大切な「安全」の部分を担っている部門です」

——やりがい

「もともと設計を担当していたこともあり、データ上で見ていたものが実際にリアルな自動車として組み上がってくるのを目の当たりにするとうれしいですね。『モノづくりをしていてよかった！』と思う瞬間です。また、私たちの仕事は自動車に乗っている人たちの安全につながっていると思うと、エンジニアとしての誇りを感じます」

——メッセージ

「私はモノづくりがずっと好きだったので、その気持ちで今の仕事につながっています。みなさんには、『好きなこと』『嫌いなこと』『得意なこと』『不得意なこと』、この4つをたくさん見つけてほしいです。嫌なこと、不得意なことを克服するのは難しいので、好きなこと、得意なことを伸ばしてください。私は高校時代にいろいろな資格に挑戦した結果、自分の得意なことが見えてきました。視野を広げて、いろいろなことに挑戦してください」

ありがとうございます。



自分
年代

18歳

↓

22歳

↓

29歳

モノづくりに興味があり工業高校に進学。様々な資格取得に励む。

電子回路、プログラミング、CADを使った設計などを学ぶ。

衝突安全性能を評価するエンジニアとして、日々の仕事に取り組む。

先輩のインタビューをもっと見たい方は、WEBサイトへ！

<http://amb100search.com>





新商品の開発を通して、
お客様に美味しいお菓子を届ける

中原可琳さん(2000年生まれ)
昭和高校 出身

出身
大学

名古屋学芸大学

管理栄養学部管理栄養学科卒業
<https://www.nuas.ac.jp>



企業
情報

桂新堂株式会社

名古屋市中区金山1-14-18 A-PLACE 金山5階
<https://keishindo-shop.com>

——学生時代——
「学生生活を通して、バスケットボールやテニス、卓球など様々な部活を経験しました。先輩後輩の関わりからは上下関係を学び、勝利からは達成感、敗北からは悔しい思いを味わい、厳しい練習を通してあきらめない気持ちや身についていたと思います。家族の体調不良をきっかけに栄養や食事に関心をもち、管理栄養士を志すようになりました」
大学時代について教えてください。
「高校卒業後、名古屋学芸大学管理栄養学部に進学しました。座学では生化学や公衆栄養、給食管理、食中毒について学び、病院や保健所での実習も経験しました。印象に残っているのは、食育推進学生レシピコンテストに参加したこと。餃子の皮で作るカレーパンのレシピを開発し、子どもと一緒に作れる工夫や栄養面を意識した内容で全国大会に出場しました。それまでは病院志望だったのですが、商品企画や開発への興味が芽生える転機となりました。卒業後、えびせんべいの製造・販売をおこなう桂新堂に商品開発として就職しました」
——仕事について——
「半年間の研修では、3つの工場を回り、製造現場でお菓子づくりの工程を1から学びました。半年間の研修の中で、実際に作っている人の思いを知ったことが開発の仕事にも活かされています」

現在の活動内容を教えてください。
「新商品の開発、定番商品の改良を通して、お客様に美味しいお菓子を届けることが商品開発の仕事です。私は、『まるごととうもろこし』や『淡路島そだちのこちそうたまねぎ』など、季節商品や新製法のお菓子の開発を担当しています。営業や企画からの依頼に応じて試作品を作り、味付けや方向性のフィードバックをもらいながら改良していきます。他部署と意見交換をしながら、生産ラインで再現できるかの検証も行います。安定供給のための原料調達や原価調整なども行っています」
——やりがい——
「自分が担当した商品が店頭に並んでいる様子を見ると、商品が完成するまでの道のりが思い出され、達成感を覚えます。お店に足を運ぶと、実際に商品を手に取っているお客様を見る機会もあるので、そういう瞬間にもやりがいを感じます。学生時代の友人から、『リピ買いしたよ』という連絡が来たときもうれしかったです!」



——メッセージ——

「商品開発の仕事は、『もっと美味しいものを作ろう!』という向上心が必要です。この仕事は、何度も試行錯誤を重ねなければいけません。何事も前向きに考えられる、負けず嫌いな人に向いている仕事だと思えます。みなさんの中には将来に不安を抱える方もいるかもしれませんが、今のうちにいろいろなことに挑戦してみてもいいです。そのなかで自身の向き不向きが見えてくるかもしれません。高校生活を思い切り楽しんでください!」
ありがとうございました。



18歳
↓
自分
22歳
↓
現在

部活を通して、あきらめない気持ちを身につける。
食育推進コンテストがきっかけで、商品企画や開発の仕事に興味をもつ。
他部署と意見交換をしながら味付けや方向性を固めていき、新商品の開発に取り組む。

先輩のインタビューをもっと見た方は、WEBサイトへ!

<http://amb100search.com>



間違ってもいい、自分の意志で
進む道を選ぶことが大事



伊藤通康 さん (1976年生まれ)
愛知高校 出身

企業
情報

**サンライズ商事株式会社
加屋 / MALIBU COFFEE**
名古屋市名東区大針2-39-3

——学生時代

「高校時代に出会った、『飲食・音楽・サーフィン』が自分の人生の土台になっています。実家がラーメン屋や焼き肉屋、カラオケなどの飲食店を営んでいたのも、その様子を間近で見っていました。また、姉の影響でレゲエやヒップホップなどの音楽に熱中し、サーフィンにハマったのも姉の旦那さんの影響です。おしゃれでかっこいい、そんな世界が当時の憧れでしたね」

——仕事について

「音楽、サーフィン、鉄板焼き屋、この3つにがむしゃらに取り組んだ時期がありました。やると決めて打ち込んだら目標の場所に到達できるという、確信めいた自信がそのときにつきました。当時は何事も見て覚える時代で、今のようにスマホひとつで情報や攻略法がすぐ手に入るわけではありません。でも、実際に現場に足を運んで熱量を感じ、体で覚えるからこそ本物の学びになったと思います」

——現在の仕事内容を教えてください。

「現在は、『鉄板焼・お好み焼加屋』など大型店3店舗、『MALIBU COFFEE』の運営に加え、飲食店のプロデュースなど様々な事業を展開しています。飲食業の魅力は、お客様とダイレクトに接し、その反応をリアルに感じられるところ。喜びも悔しさも、現場や数字の面で体感できる仕事です」

心がけていることは？

「お客様にもスタッフにも、常に感謝の気持ちを忘れないようにしています。それは、もはや心がけを通り越して習慣になっています。あるとき、素晴らしい飲食店オーナーと出会ったことで、自分の未熟さを痛感したことがあります。でも、その悔しさが原動力になりました。下のグループのトップより、上のグループの最下位になったほうがいい。安全な場所にとどまるより、常によりよいものをめざす姿勢が、成功につながると思っています」

——やりがい

「経営者は店舗にいないほうがいいという考えがありますが、1周回って私は自分が現場に立つ重要性を再認識しています。人が人にサービスを届けているので、現場を理解し、スタッフと想いを共有することが重要。今後は、おじいちゃんから孫までが訪れ、末長く地域に愛される『帰りたくなる場所』を作りたいです。お客様の思い出の一部になれることが仕事の喜びです」



——メッセージ

「みなさんに伝えたいのは、『人と同じ道を進まなくていい』ということです。隣の誰かと同じ進路を選ばなきゃ、という空気に流されず、自分の心の声に耳を傾けてほしいです。私も、人と同じことが嫌で、進む道を自分で選び続けてきました。たとえその先でつまずいたとしても、自分で選んだ道なら納得できるはず。間違ってもいい、自分の意志で選ぶことが大事。遠回りだと思っていた道が、実は意外と近道だったと思うこともありますよ」

ありがとうございました。



自分
の
数
字

18歳

↓

31歳

↓

現在

実家や姉の影響で出会った「飲食・音楽・サーフィン」が人生の土台に。

家業を継ぎ、本格的に店舗経営、飲食店プロデュースに注力する。

末長く地域に愛される場所になるよう、日々、店舗やスタッフと向き合う。

先輩のインタビューをもっと見たい方は、WEBサイトへ！

<http://amb100search.com>





明るく笑顔で元氣よく接することで、
地域に寄り添う存在でありたい

後藤実里 さん (2000年生まれ)
千種高校 出身

出身
大学

南山大学

外国語学部
<https://www.nanzan-u.ac.jp>



企業
情報

愛知県警察本部

名古屋市中区三の丸2丁目1-1
<https://www.pref.aichi.jp/police/>

— 学生時代

「高校時代は剣道に打ち込み、強豪校ではなかったものの仲間と切磋琢磨した日々が思い出に残っています。1年間メキシコに留学したことも印象に残っています。英語圏ではない国で異文化を体験。現地の人々のあたたかさに触れ、日本のよさを再確認できました。人と違った経験ができたことが視野を広げる大きなきっかけとなりました」

大学時代のことを教えてください。

「進学した南山大学ではスペイン語を専攻し、中南米やスペインの文化や歴史について学びました。コロナ禍で現地に行くことは難しくなったものの、ネイティブの先生方から学べる環境が大学には整っていたので語学力を高めることができました。スペイン語を活用したプレゼンやディスカッションなど、アウトプットの機会が豊富だったことも成長につながっていると思います」

— 仕事について

「中学生のころから『正しいことを当たり前にする』という信念をもっていて、正義感の強い性格が今の進路選択につながっています。愛知県は外国籍の住民が多いので、大学で培った語学力がいかせるとも考えました。公務員試験に向けて大学が提携している予備校に通い、同じ目標をもつ仲間と励まし合いながら取り組めたことが大きな支えになりました」



現在の仕事内容を教えてください。

「私が所属する地域課は、住民のみならずと直接ふれあう機会が多く、何かあったときに最初に駆けつけるのが役目です。落とし物や拾得物の対応、事件や事故の現場での聞きとりや状況確認などの初動対応をおこなう担当の課に引き継ぎます。また、巡回連絡では地域のお宅を訪問して、防犯意識の向上にも努めています」

心がけていることは？

「明るく笑顔で元氣よく接すること、地域に寄り添う存在でありたいです。事件や事故の際は毅然とした対応をしつつ、普段は親しみやすい存在として、地域のみなさんに安心を届けることが私たちの使命です」

— やりがい

「やりがいを感じるのは、何も起こらなかった日。事件や事故がないことが一番ですし、『今日もいい1日だったな』と思えます。また、日々の経験の積み重ねで、できることが増えて成長を感じることややりがいにつながっています」

— メッセージ

「とにかく人と関わる仕事なので相手の話を聞けること、そして自分からも話せることが大切だと思います。地域の子どもから高齢者まで、老若男女に対応できる力が必要です。私は語学の試験区分で採用されました。外国人に対する対応では、語学力だけでなく、相手の文化的な背景を理解しておくことが大切です。高校時代の留学経験や、大学でスペイン語や中南米の文化や歴史を学んだことが、仕事の幅を広げることに繋がっていると感じます」

ありがとうございます。



自分
の
安
心

17歳

↓

20歳

↓

現在

1年間のメキシコ留学を経験し、日本のよさを再確認。視野を広げる経験になる。

南山大学に進学し、中南米・スペインの文化や歴史などを学ぶ。

地域課に所属。巡回連絡や初動対応を通して、県民の安心安全な生活を守る。

先輩のインタビューをもっと見た方は、WEBサイトへ！

<http://amb100search.com>



地域のお客様を支える

課題解決につながる提案を通し、



大島拓真さん (1996年生まれ)
出身 鳴海高校

企業
情報

株式会社名古屋銀行
名古屋市中区錦三丁目19番17号
<https://www.meigin.com>

出身
大学

愛知学院大学
経済学部
<https://www.agu.ac.jp>



——学生時代

「高校時代はラグビー部に所属し、部活中心の生活を送りました。同じ目標に向かって、仲間と部活に励んだ毎日が思い出になっています。お金に関することを勉強すれば、普段の生活にも学んだ知識が役立つと思います。愛知学院大学経済学部に進学しました」

大学時代のことを教えてください。

「マクロ経済やミクロ経済、年金の仕組みについてなどを学びました。自主的に行動し、資格講座に通ってFPを取得したことも成長につながったと思います。就職活動は、金融関係を中心に活動しました。キャリアセンターに通い、面接対策や履歴書添削をしてもらいました。OB訪問で名古屋銀行の副支店長さんと話す機会があったことが就職先を選んだきっかけです」

——仕事について

「1年目は4ヶ月間の研修があり、金融の基礎やお札の数え方を学び、金融商品の販売に必要な証券外務員、生命保険・損害保険の資格を取得しました。その後、支店に配属され、窓口業務や出納、預金、融資業務を学びました。印象に残っているのは『常にお客様の目線に立って仕事をすること』という課長の言葉です。これは今の自分の軸になっています。また、先輩や課長の営業に同行し、話し方や提案の仕方を間近で学ぶことで実践的なスキルを身につけることができました」

現在の仕事内容を教えてください。

「日々お客様のもとへ訪問し、預金や融資、預かり資産などの提案をおこなっています。法人のお客様には融資の提案を、個人のお客様には投資信託や保険を提案します。大切にしているのは、お客様の立場に立ちながらも、ただ要望に応えるだけでなく、よりよい選択肢を提案する姿勢です。融資では資金調達の目的や将来の事業計画をしっかり聞き、必要な資金を見極めます。また、人手不足などの課題に対しては、ほかのお客様とのビジネスマッチングもおこない、潜在的な課題を見つけて解決につながる提案力と目利き力が求められる仕事です」

——やりがい

「難しい融資の相談を受け、様々な障壁を乗り越えて実現できたときは、『助かりました。ありがとう！』『担当が君でよかった！』と感謝の言葉をいただけることがあります。地域のお客様の支えになれていると実感できる瞬間です」



——メッセージ

「大学生活では、とにかく様々な経験をしてほしいです。就活のときに人事の方から、『残りの大学生活は思いっきり遊んで、いろんな経験をしてください』と言われたことが印象に残っています。みなさんも、勉強、部活、遊び、恋愛、どれも一生懸命に取り組んでください。それが社会人になったとき、自分の財産になっているはずですよ。私は、学生時代にラグビーで培った諦めない心や粘り強さが、今の仕事でも役に立っていますよ」

ありがとうございました。



自分
の
安
心

18歳 部活中心の高校生活。諦めない心や粘り強さを養う。

22歳 FPの資格を取得。大学卒業後、名古屋銀行に入行。

現在 お客様が抱える潜在的な課題を見つけ、寄り添った提案をおこなう。

先輩のインタビューをもっと見た方は、WEBサイトへ！

<http://amb100search.com>

